

《MIRAI.新聞、コースケ近況編》

主旨

今号は私コースケがお届けします。

前回も私を書きましたが、前は私の父の死についてお伝えしました。

今号では私の1月上旬から2月上旬の入院に焦点を絞って書いていこうと思います。

不安定

もともと躁鬱という障がいを持つ私は、刺激の処理が苦手です。

にもかかわらず、私は人とコミュニケーションを取るのが好きなのです。

そして、2021年の12月頃、私はClubhouseという音声でやり取りするSNSのヘビーユーザーでした。

次第に私は不安定になっていきます。」

薬に裏切られたという思い

不安定な時は、とんぷくという薬を飲みます。

とんぷくとは毎日飲むのではなく具合の悪いときだけに飲む薬のことです。

しかしそのとんぷくは口がもつれるという副作用があります。

私は具合をよくするために、というかClubhouseをやっている間でも大丈夫なようにとんぷくを飲んでいたので、飲めば飲むほどClubhouseに支障をきたします…。

私は薬を信じて飲んでいたので裏切られたと思いがちです。

入院

私は憤り過ぎて、精神科の病院に入院することを自ら選びます。

しかし、入院さえすればよかったという訳ではありませんでした。

どうせ入院するのなら徹底的に私に合う薬を試行錯誤してほしくて入院したのに、先生は初めは様子見ということで薬を変えようとしてくれず、そうしているうちに僕の状態がまともになったから、他の患者から変な影響を受けないように、ということで、私は3カ月ほど入院していたかったのに1カ月で追い出されることになりました。

新たな薬

しかし新たな薬は退院をしてから通院で試すことになりました。

新たな薬・「エビリファイ」は、飲んでも口がもたれず、躁鬱の波を上がろうが下がろうがその出方をマイルドにしてくれるような感覚を、変えてからまだ満2カ月ですが感じています。

ですがこれでめでたしめでたし、かと思いきや、そういう訳にもいきませんでした。

やはり躁鬱は続く

1月上旬に入院し、2月上旬に退院し、退院後約1カ月間自宅で引きこもり、この4月上旬にClubhouseを再開したのですが、わずか1週間で躁になりかけてしまいました。

Clubhouseの仲間に指摘されて、私が反発してしまっただけで、でも別の仲間がまた諭してくれて、私は自らの誤りを反省しました。

今は2週間のClubhouse禁止条例を自ら発令中です。

いやあ、躁鬱のおかげで磨かれています。